

静岡放射能汚染測定室だより

第3号

2011年9月28日発行

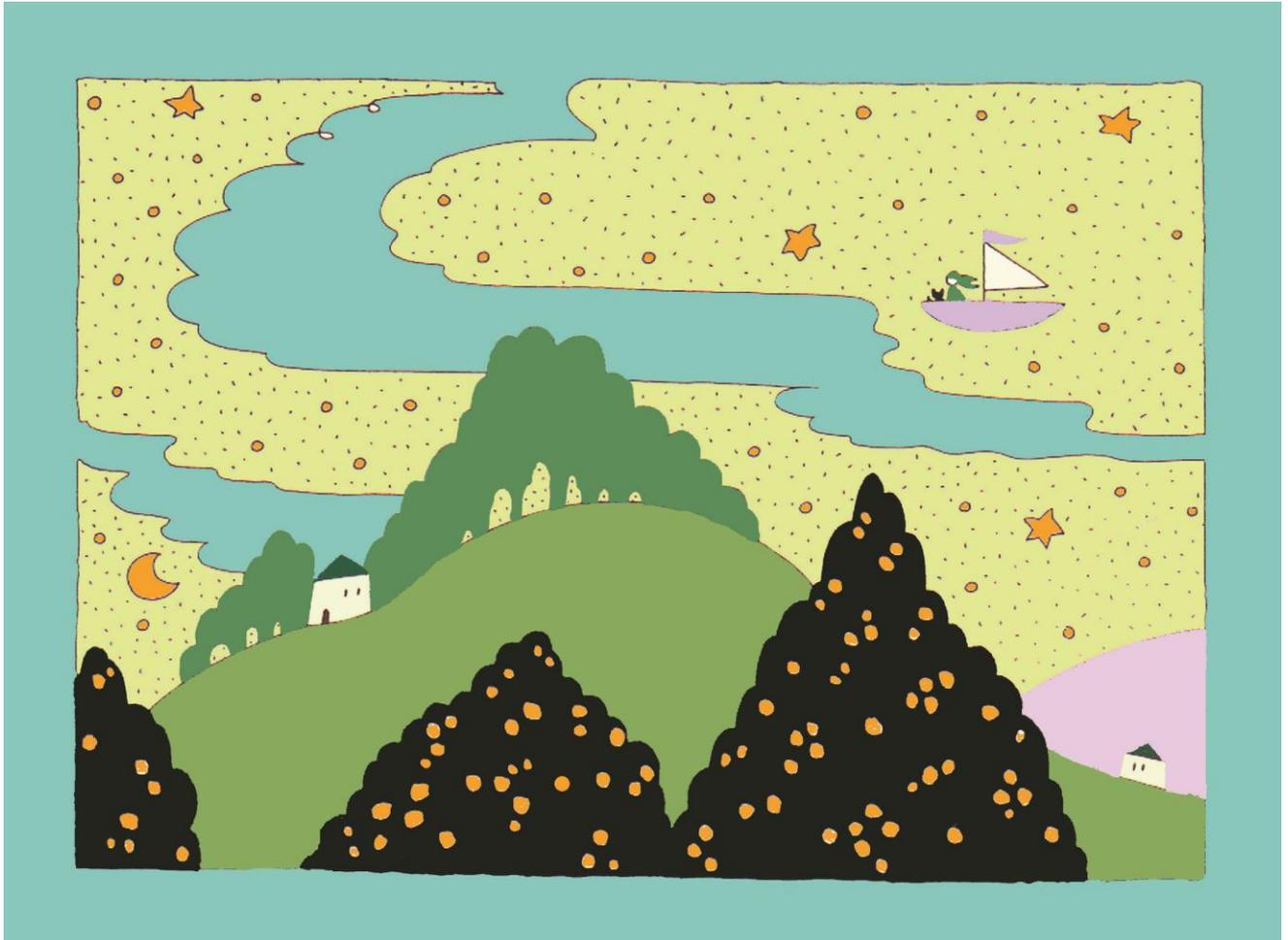


イラスト 清重伸之

目次

- | | | | |
|--|--------|----------------------------|-------|
| ■ 測定結果報告 | ・・・1 | ■ 横浜市でホットスポット、
市民の測定で判明 | ・・・9 |
| ■ 測定についての補足 | ・・・2 | ■ お知らせ | ・・・10 |
| ■ 8月30日(火)
第2回『放射能を話そう♪』報告 | ・・・3-7 | ■ トピックス | ・・・10 |
| ■ 福島原発・放射能汚染を超えて
～『静岡の娘へ(3)』～
河野益近さん寄稿 | ・・・7-8 | ■ 測定室日誌 | ・・・11 |
| | | ■ プラムフィールドの窓 測定室の風 | ・・・11 |

会員頒布用

価格 1部 500円

編集・発行 : 静岡放射能汚染測定室 事務局

〒420-0882 静岡市葵区安東1-2-3 プラムフィールド内
TEL/FAX : 054-209-2021 (月～金 10:00～16:00)
測定室 Ph : 070-5034-0920 (月～金 9:00～17:00)
e-Mail : ssokuteisitu@yahoo.co.jp
URL : <http://plumfield9905.jp/07/074/074.php>

測定結果報告 2011年8月12日～9月15日

静岡放射能汚染測定室調べ

測定値の単位はベクレル/kg、()内の数値は検出限界値

(賞味期限記載なしは H23 年)

*「↓」は検出限界値以下 (Bq 記載を割愛)

	産地	食品名	セシウム 134	セシウム 137	測定値合計	検体重量(g)
*1	静岡県清水港(8月10日産)	釜揚げシラス	不検出	不検出	不検出	404
	静岡県浜松市中区	水道水(6月30日採取)	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	600
	北海道(魚)野菜(国産)	野菜天(賞味期限8月14日)	不検出(2↓)	不検出(3↓)	不検出	446
	静岡県静岡市産	茎わさび(賞味期限8月3日)	不検出(2↓)	不検出(3↓)	不検出	402
	静岡県静岡市産	わさび漬(賞味期限8月6日)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	841
	茨城県稲敷市	H22年産 玄米	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	567
	愛知県産	生鰻(8月6日仕入れ)	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	625
	静岡県静岡市足久保	H22年産 玄米	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	558
	静岡県静岡市葵区	水道水(8月21日採取)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	575
	北海道H22年産	強力粉(賞味期限2012.1.16)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	439
	兵庫県産(三陸水産)	釜揚げシラス(冷凍)	不検出(2↓)	不検出(3↓)	不検出	485
	神奈川県茅ヶ崎市	母乳(41歳)	不検出(1↓)	不検出(1↓)	不検出	596
*2	群馬県利根郡昭和村産	大根	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	459
*3	静岡県藤枝市時ヶ谷産	かぼちゃ	不検出(1↓)	不検出(1↓)	不検出	470
*4	静岡県藤枝市時ヶ谷産	じゃがいも	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	601
*5	静岡県浜松市天竜区産	緑茶(H23年度産)	136	176	312	250
*6	静岡県掛川市産	ブルーベリー	不検出(1↓)	不検出(1↓)	不検出	672
*7	静岡県富士市産	いんげん豆(自家菜園冷凍)	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	484
	北海道 海外(明治ステップ)	粉ミルク(賞味期限7月8日)	不検出(3↓)	不検出(3↓)	不検出	344
*8	静岡県浜松市天竜区産(*5の茶葉)	飲用茶(H23年度産)	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	428
	山形県	H22年産 玄米	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	569
*9	静岡県静岡市駿河区産	フキの葉	不検出(1↓)	不検出(1↓)	不検出	212
	南太平洋(焼津マグロの生炊き)	バチマグロ(ボイル)	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	511
*10	静岡県静岡市駿河区産(*9のフキ)	フキの茎	不検出(3↓)	不検出(4↓)	不検出	263
	日本(グリコ・ドライミルク)	粉ミルク(賞味期限4月25日)	不検出(3↓)	不検出(4↓)	不検出	311
	愛知県豊橋市	肉入りまんとう(賞味期限8月25日)	不検出(4↓)	不検出(5↓)	不検出	254
	秋田県産トマト(トマトジュース)	のむトマト(賞味期限8月)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	613
	北海道産大豆使用	おから(賞味期限8月26日)	不検出(2↓)	不検出(3↓)	不検出	404
*11	静岡県静岡市葵区	ブラックベリー	不検出(2↓)	不検出(2↓)	不検出	603
	静岡県沼津市産	天然潤水(ミネラルウォーター)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	711
	静岡県富士市	水道水(9月5日採取)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	608
	日本	だしの素(賞味期限8月2日)	不検出(2↓)	不検出(3↓)	不検出	449
	中国内蒙古産岩塩	食塩(天日湖岩塩)(5月24日輸入)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	762
	日本(賞味期限2012.4.19)	カルピス原液(賞味期限2012.4.19)	不検出(1↓)	不検出(1↓)	不検出	737
	日本・大阪(賞味期限2011.9.14)	ヤクルト(賞味期限9月14日)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	626
*12	静岡県藤枝市瀬戸谷産	飲用紅茶(H23年度産)	不検出(1↓)	不検出(1↓)	不検出	650
*13	静岡県御前崎市白羽産	さつまいも(8月下旬収穫)	不検出(2↓)	不検出(3↓)	不検出	455
*14	静岡県裾野市産	じゃがいも(6月5日収穫)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	652
*15	静岡県浜松市産	かぼちゃ	1.7	2.3	4.0	516
*16	長野県筑摩郡産	じゃがいも(6月頃収穫)	不検出(1↓)	不検出(1↓)	不検出	645
	静岡県浜松市産	H23年産 玄米(9月収穫)	不検出(1↓)	不検出(2↓)	不検出	619

■ 測定についての補足

今回より、各測定品について、検出限界値を表記するようにしました。

検出限界について

検出限界については、会員さんからの質問も寄せられ、創刊号でも2号でもお返事を掲載させていただいていますが、測定室スタッフも測定しつつ、分からない事を知っていく毎日を過ごしています。そんな中で受け取るアドバイザーである専門家からの小さなお返事メールをおすそ分けします。以下は、河野益近さんからのメールです。

.....

同じ種類の試料(お茶ならお茶を)を同じ量だけ同じ検出器で同じ時間測ると検出限界は同じになります。

さて、検出限界を変える要因はなんでしょう？

現在の測定室だと

①試料の種類

②試料の量

が、検出限界を変える要因です。

①の試料の種類というのはカリウムが多いか少ないかです。カリウムが多い(お茶は 1000 ベクレル/kgくらい)と、カリウムのすそ(コンプトン散乱したガンマ線)が多くなり、放射性セシウムのピークの下にもぐりこんでいきます。すなわち、放射性セシウムのカウント数にカリウムの多さに比例したバックグラウンドが加算されることになります。

ということでカリウムが少ないと検出限界も少し改善されます。

.....

* 1

測定室だより2号で測定報告をした 静岡市清水港産 生シラスと同じ漁船で捕れたシラス。

生シラスでは	セシウム 1 3 4 ... 3 ベクレル / k g
	セシウム 1 3 7 ... 4 ベクレル / k g
	合 計 ... 7 ベクレル / k g

でしたが、釜揚げにしたものは、不検出でした。

検出限界は、2 ベクレル / k g。

* 2

大根は水洗いをして、皮付きのまま細かくみじん切りにして測定。

* 3 と * 1 5

皮を水で洗い、皮付きのまま、種を除いて測定。

* 4 と * 1 4 と * 1 6

水で洗った後、皮をむいて測定。

* 5 と * 8

同じ茶葉 * 5 は茶葉で測定。

* 8 は 1 人分 5 g、5 人分の茶葉 (25 g) を 60~70 度に冷ましたお湯で 1 分間おいて、飲用にして測定。

* 7

水で洗って、一度冷凍したものを測定。

* 9 と * 1 0

同じ場所で採れたフキ。水で洗った後、* 9 は葉

* 10 は茎に分けて測定。

* 1 1

加熱後、種を除いて、冷凍保存をしたもの。

* 1 2

『測定室だより』創刊号で測定結果を報告した静岡県藤枝市の同じ紅茶葉を、飲用で測定。

ティースプーン 5 杯の茶葉に、7 0 0 m l の熱湯を加え、2 分間おいて入れた紅茶。

茶葉で測定した結果は

セシウム 1 3 4 ...	24.5 ベクレル / k g
セシウム 1 3 7 ...	29.9 ベクレル / k g
合 計	54.4 ベクレル / k g

* 紅茶も煎茶同様、飲用で不検出となるのは、嬉しいです。

* 1 3

2 回水洗いして、皮つきで測定

* 玄米の測定について

特に指定が無い場合は、洗わず、そのまま測定。

9 月に入って、各地からの玄米の測定依頼が続いています。各地の玄米の様子が出揃うのは 10 月末になるので、次号の『測定室だより』をご覧ください。

■ 第2回『放射能を話そう♪』報告 8月30日(火)

測定室アドバイザー河野先生とのQ&A

スカイプ部 始動

2011年8月30日(火) 10:30~12:00

進行: 測定室スタッフ 竹内せつ子

報告: 測定室スタッフ 伊藤美智代

参加者 43名(内 男性6名) + 乳児・幼児5名
(会員: 23名、一般: 12名、スタッフ: 8名)
伊豆の国市・富士宮市・富士市・静岡市・藤枝市
島田市・掛川市・磐田市・浜松市
スカイプ参加者: 6名

今回は、当測定室アドバイザーの河野益近さん(京都大学大学院電子核工学)が、全国の松葉の汚染調査を終えて、さらに詳しい調査をする県に「静岡県」を選んで来静。『放射能を話そう』にも飛び入り参加してくださいました。そのお知らせが測定室だより2号に間に合ったこともあり、前回よりも少し広めのスペースを確保したプラムフィールドでしたが、やはりあふれるばかりに大勢の方が参加してくださいました。真夏を思わせる暑い中、ありがとうございました。



前置きなしのQ&Aに徹した90分。16個の質問に河野さんは丁寧に答えてくださり、前回同様、みなさんの体験・経験も語られ、本当に充実した90分でした。そして、子育て中のお母さんたちの具体的な心配や素直な質問に、大切なことは放射能被ばくを抑えるための方法だけではなく、一人ひとりが困難な状況に出会った時の「生き方」を問われているのだ!と思いました。

最後に測定室代表・馬場より、現在の測定室の状況の説明とメッセージがありました。

◎スタッフが測定作業にも慣れてきたので、一日2検体の測定も徐々にできるようになってきたところ、測定器のアンプが土曜日(8/27)に壊れ、この3日間測定が止まっています。



この測定器は甘えん坊のおばあちゃん(23年前のもの)、心臓移植をし(新しいものと交換)測定をしていました。土曜日に不具合になった部品を本日、河野先生が京都より持ってきてくださり、河野先生やW氏の手により、近日中には修復の予定です。→セッティング・調整が無事終了し、9/1より、測定が再開しています。



◎これからも月1回のペースでこのような会を続けていきたい。

—私たちスタッフは専門的な知識や技術があるわけではなく、測定に関わる事務的なことをやっているが、経験として、海外の使用状況が分からない食べ物を選ぶか、セシウムの汚染をとるのか、正しい結論はないが、考えていくことが大切と思っている。そのためにも、このような会を続けていきたい。

◎皆さんの知り得たこと・経験を測定室にお寄せください。

『話そう会』だけでなく、行政への働きかけなどはホームページなどでも伝え合い、粘り強く行政にお願いし続けることが、この汚染の中で生きていく大人たちの責任かと思う。「A市でやっていることを是非、私たちの市でもやってほしい」という声を伝えることが大事!

◎飽きずに、そして、“放射能の振る舞いは分からない”けれど、分からない中でどうするか？向き合い続けましょう！

－「結局、どうしたらいいかわからない」とあきらめてしまうのではなく、自分たちがどんな風に暮らしていきたいのか？を考え続けていきましょう。河野さんはじめ私たちチェルノブイリ事故を知っている世代にとって、一番の驚きは、「福島事故があっても、まだ原発を続けよう」としていること。浜岡原発も決して安全なわけではありません。「どんな風に暮らしたいか？」を考えるためにも、是非、引き続き測定結果をながめてくだされば…と思います。



2011. 08. 30 第2回 「放射能を話そう」 河野益近さんとのQ&Aの一部。

河野さんより、あいさつにかえて

松葉に含まれる放射能の全国分布 (http://kohno.at.webry.info/201104/article_25.html .) を調べており、その結果が7月にまとまり自分のブログに載せているので、よければ見てください。ちょうど数日前に発表された、『国立環境研究所』のシミュレーション結果(汚染地図 <http://www.nies.go.jp/whatsnew/2011/20110825/20110825.html>)も見られるようになっているので参考にしてください。両方見てみると、「松葉は意外と忠実に汚染の具合を再現しているな」と思いました。国立環境研究所の結果はより細かく載っているので、自分の住んでいる所がだいたいわかります。静岡はあれを見た限り25年くらい前のレベルだと思います。

Q1：中学2年生と小学4年生の娘がいて、学校給食のことが不安。新米について県に聞いたところ、静岡県内は東・中・西部の3か所の早場米を調べ、そこが出なかったで「県内はOK」、それぞれの市町は詳しく調べない。土壌としては10 Bqの汚染なので、稲に移行するのはその1/10で1 Bqくらい(2 Bqの検出限界値の機械で測定)なので大丈夫です—と言われたが、「同じ茶畑のお茶でも場所によりばらつきがある」と聞いたりすると、こんなアバウトな測り方で大丈夫なのか？また、県内の

土壌の汚染がどこも10 Bqくらいというのをうのみにして信じていいのか？

A1：おそらく汚染は真東の方が高いと思います。それは国立環境研究所のデータを見ればだいたいわかる。行政としてやれるかどうか？という問題だと思う。一応行政としてやらなければいけないので、三つに分けて三つやりました」ということでしょう。

では、実際にはどうしたらよいか？→もう汚染してしまったのだからどうしようもないです。だから最初に汚染しないようにというのがまずは大前提なのだが、相変わらずだめです…。

汚染値が低くても、毎日食べるものと、たまに食べるものは、レベルが違っていてもいいのでは…。お米は毎日食べるものだから、私としてはもう少し東側のサンプリングポイントを増やしたほうが良いと思う。1 Bqを測るには1 kgのお米で、私の研究室の測定器でだいたい半日あればできる。ただ普通、企業が測っているのは、一万秒くらいだと思う。一日に6～8検体くらいが限度で、一万円くらいかかる。

10検体測ろうとすれば一週間くらいあればできるので測ったとしても、行政として何ら困ることはないと思う。衛生研究所がたぶん装置を一台持っていると思う。1986年に国が全国の衛生研究所に配っているはず。測ったデータは国に報告する義務があるようだ。実態がどうなっているかわからないが、装置としてはあるはずなので、県としてはそこで測れると思う。だから検体を増やす分には問題はないと思う。

測定結果が安全かどうかと聞かれると、放射能があるわけだから、当然安全ではない。でも安心できるレベルかどうかは他との比較になるので、それは東京よりも安心、神奈川だったら同じくらい。福島はとてもひどい状況なのでそれに比べたら、ずっと安心できるレベルだけれども、安全かと言われると安全ではない。

被曝というのは、被ばくした量に比例して影響が出る…というのが一応考え方なので、100ミリ以下は影響がないと言う人もいるが、影響がないのではなくて影響はわからない。わからないから、ICRP(国際放射線防護委員会)も一応原子力は推進しているが、被曝量に応じて影響があると考えるのがリーズナブルであると言っている。50ミリでも10ミリでも影響があると考えるのが妥当。でも自分がそこで生活して

いくうえで、他へ引越すデメリットと被曝量を比べて、しかたなく残っている人がたぶん東京などはかなりいると思う。

危険かどうかと言えば危険だが、「引越さなければいけないか？」と聞かれれば、「引越せるなら引越した方がいい」のだが、その先の生活もいろいろあるので一概には言えない。

福島市や郡山市・栃木県那須塩原などの人に聞かれたら、「ウン」という。私が静岡に住んでいたら、他のデメリットも考えて、なんとか他の方法で被曝量を下げる努力をして住まざるをえないかなと思っている。

Q2：松葉を採取して放射能の汚染度を調べているということだが、植物によって放射能の吸収しやすいものとその影響が現れにくいものもあるようだが、松葉を選んだ理由は？

A2：◎日本中にある◎いつ行っても採取できる◎日本中ほぼ同じ条件で採取できる→つまり、比較がしやすい。30年研究してきた結果、高さや種類の違いによる影響もほぼないとわかった。

「松葉が放射能を吸収しやすい」と書いているブログもあるようだが、私は松葉が特別に放射能を良く吸収するという論文は見たことがない。

なぜ、たくさん着くかというのは、おそらく葉の形状が針状なので（ラジエーターのピンのようなもの）、単位体積当たりの表面積が多く、空気が流れる表面積がたくさんあるということだと思う。「やに」があるから吸着しやすいとも言われるが、松葉はちぎらない限りヤニは出さない。傷つけないとヤニは出ないので、普段の状態でもヤニにくっつくということもない。

Q3：松葉の採取方法も条件を一定にすると思うのだが、その方法は？…枝に付いている状態で採取するのか、落ちて下に積もった状態のものなのか？

A3：植物は自分が死ぬ時に（葉を落とす時に）、中に入っている栄養の一部をいったん、木の幹に戻す。だからカリウムの分布を木を切って調べてみると、カリウムは木が活性なところに多く、同じところにセシウムも多い。木の内側は活性度がだんだん下がっていくのだが、中心にくるとまたカリウムが多くなる。そ

れは栄養がなくなった時にも成長できるように蓄えているから。このような植物の特性があるので、落ち葉は条件により放射能の吸収具合も一定でない可能性が高い。なので、成長している段階のものを採取している。生きている松葉は間違いなく同じ条件で採れるので、わからないところは省いていくのが普通のやり方。

あくまでも環境試料なので、全く同じ条件ということとはありえない。二桁違えば問題だが、2倍3倍は十分ありえる誤差（ばらつき）。

私の地図はそのようなつもりで見てください。

Q4：ひまわりの種を集めてほしいという話があった。種の取り方を調べたら、「まだ地表面に放射能がある。ひまわりはかなり深く根をはるので、チェルノブイリ事故の後もひまわりの栽培はずっとあとになってからなので、今植えてもしょうがない」というコメントを読んだ。その点はどうなのか？

A4：やったことのないことに答えるのはむずかしいが、基本的に核実験の影響はほとんど腐葉土のところ、にとまっている。地面によって中まではいって行くには、かなりの時間がかかる。何十年もほとんど表面付近にとまっている。土だったら雨で流れていく。腐葉土だったらほとんどが数十年腐葉土にとどまっていると考えた方がいい。ほんのわずかな部分が地面に入っていく。セシウムはカリウムと同じ。だから腐葉土をどこかに持っていくと常に高い値が出る。腐葉土は放射能を貯めている。ストロンチウムは少し違うが私は詳しくないのでセシウムのことを話す。

セシウムは腐葉土に貯まっているので、今年の秋の落ち葉はかなりあちこち高いと思う。特に関東・東北の汚染しているところはすごい放射能だと思う。

今までは地面に落ちたものだけだったが、これはから木についている葉っぱが落ちてくるので、地面プラス葉っぱ。それは長い間とどまっている。なので、地面深く浸みていくのもかなり時間が経ってから。地面表面付近に生える植物でないか吸収はしにくいとは思う。実験したことはないのですが、断定はできないが想像ではそうだろうと思う。ただそうではあるが頑張っている人たちもいるので、多少は良いでしょうということだ。

■参加者の感想■

私は2歳の男の子をもつ島田市在住の者です。

第二回「放射能を話そう」の会に出席させていただきました。私は今回の事故が起こるまで原発はあるのが当然の事で何の疑問もたずにいました。

3月11日の地震、そして原発事故が起きても恥ずかしながら遠くの出来事でここまで大きな被害がでるとは思いもしなかったのです。

神奈川の茶葉から暫定基準値を超える放射性セシウムが計測された頃になってようやく静岡も安全ではないのではと気づいたくらいでした。

それからはインターネットで食品の安全性や原発のこと、事故の事を調べていき自分の生活は原発というこんなにも恐ろしいものに支えられていたのだと分りました。

知識や情報は調べれば得ることができますが、だからといって何をしたら良いのかわかりません。今流通している食品がどの程度汚染されているのか、どうしたら汚染されていない食品を手に入れるのか...私の家族はそんなに心配しなくてもという考えだし、かといって放射能のことを気軽に相談したり話したりできる友達もいません。自分が心配しているのは神経質すぎるのか...など考えても仕方がないことを思い、悶々としていました。でも「放射能を話そう」の会に出席させていただいて、同じように不安に感じている人がたくさんいることがわかり少し安心したような心強いような気持ちになりました。

私は小心者で人前で発言することは苦手ですが、出席されたかたの質問のやりとりを聞き、有益な情報をいただいたのはもちろんですが、やはり私もできることを少しずつやっていかななくてはと背中を押してもらった気がします。

私の子供は保育園に通っており、その給食の事が気になって仕方がなかったのですが、給食の事を問い合わせるのは毎日一生懸命子どもをみてくれている先生方を疑うようで申し訳なく、なんとなく聞けずにいました。

でも「放射能を話そう」の会の後、頑張って園長先生に給食の食材の事を問い合わせしてみました。特に気になっていた牛乳は業者に産地を確認し、測定しているかどうか、測定結果も確認していただいているとのこと。そして米は保育園周辺の農家の方から購入できるようこれから調整してくとの事でした。

そして測定室の馬場様に電話で保育園の砂場の土を計測していただけないかお願いしたところ、ガイガーカウンターをお借りすることになりました。もし私に子供がいなければ、何も気にしなかったかもしれません。でも、今は子供たちが少しでも安全に、安心に暮らしていけるよう、できることはやっていこうと思います。

その気持ちを持續するためにも「放射能を話そう」の会にまた参加させていただければと思います。

(島田市 O. J さん)

私は7歳と3歳の子どもの母親です。

3月の福島第一原発の事故以来、放射能についての情報を集めていて静岡放射能測定室の会員になりました。信頼できる情報が少なく不安の中で子育てをしておりませんが、この測定室を通して具体的な情報交換が出来る事に強く支えられております。

洗濯物を毎日屋外に干している事への不安に始まり、子どもの給食や遊び場など、生活の中で不安は沢山あります。私は、とにかく今の生活の中で家族を守る為の対応策を知りたい気持ちを強く持っていました。

しかし先日の河野先生を交えたイベントに参加し、自分の家族を守る事だけでなく、日本全体の汚染や今後の原発存続について真剣に考えていかなければいけないのだと強く感じました。

”被災地に比べれば静岡はラッキーだと思う。汚染されてしまったが食べ物ですから食べなければ仕方ない...諦めの気持ちで””除染というのは放射性廃棄物を作る作業だ”という河野先生の言葉をずっと噛み締めています。今や汚染ゼロには戻れない、私達はこの大地で再生していく事を見据えなければいけないのです。私は、原発事故への日本政府の対応を見て大変なショックを受けましたが、ショックを受けているだけでなく、その現実を受け止めて行動していかねばならないと感じます。

私はこの国と子ども達の未来を守りたいと願います。現実を冷静に見る努力をし、考えつづけて、行動していきたいと思います。私にとってその大きなお手本が静岡放射能測定室の存在です。

測定室の様々な会員の方々との意見交換の場に参加し、また河野先生のお話を伺い、とても勇気づけられました。ありがとうございました。

(静岡市清水区 M. I さん)

■スカイプ・参加者の感想■

「第2回放射能を話そう」にスカイプで初参加させていただきました。

以前にスカイプを利用したことがあるのに、参加当日直前のマイクやカメラのトラブルに対応できず、担当のAさんにはご心配とご迷惑をかけしまいました。しかし、こちらからの声は無し、カメラも無しということで、プラムフィールドで行われている話を自宅にいて聴けるという最高に有り難い形での参加となりました。(質問等、こちらの声はチャット?!で対応していただけます。)

私は浜松市中区に住んでいますが、以前プラムフィールドでお借りしたガイガーカウンターで家やその周りを測定したところ、0.08~0.13マイクロシーベルトと想像以上に高く、その空気を子どもたちが吸っていると...と思うと心配になり、少しでも出来ることを知りたいと思いました。

「放射能を話そう」に参加されている方々は、すでに色々知識を持たれた方も多く、話が聴けるだけでも勉強になり、また、河野先生の質疑応答も大変分かりやすかったです。

子どもの事を考えると食べ物に特に気をつかいますが、静岡は地産地消がよいとのことで、顔の見える農家さんから買うことを基本にして、これから

も測定室のデータを参考にしながら見えない放射能とつきあっていかななくてはなあと思っています。

子ども2人を連れての会をあきらめていたのに、スカイプで参加させていただきスタッフの皆さまに感謝です。本当にありがとうございました

(浜松市 K、Y さん)



9月3日
朝日新聞

福島原発・放射能汚染をこえて 静岡に住む娘へ (3)～ —静岡県内の放射能汚染調査・珍道中報告—

測定室アドバイザー 河野 益近さん(京都大学大学院原子核工学)からの手紙

8月の終わりに、ひさしぶりにお前たちの顔を見て安心しました。会えなかった娘もいたけど、その後の手紙で少し元気になっているようで安心しました。でも、妹に心配をかけているお姉ちゃんもいて、お父さんは少しだけ心配もしています。お母さんに似ればよかったのに……。

あの時は、静岡の放射能汚染の調査のついでだったので、背広にネクタイというわけにもいかず、猫のTシャツにリュックを担ぎ、高枝切りをもった姿は、運動不足の武蔵棒弁慶みたいに見えたかもしれません。でもTシャツをかぶらずに着ていたのはお父さんらしいでしょ。ネクタイはお前たちの結婚式と、後は片手で足りるくらいしか着けたことがありません。背広は35年程前に吊るしを一着買ったただけだから、背広にネクタイで会いに行けるはずはないのですが、でも式服と白・黒のネクタイがあれば世の中はなんとかなるものです。お前たちが言うとおおり、人にはあまり自慢できるお父さんではないですね。

今回は調査が優先されたので、あまり話が出来なかったね。お父さんと話すことも無いかもしれないけど……。

あの後、いろんな人がお父さんの試料採取に協力してくれました。

お父さんの日記をちょっと公開します……。

8月30日(火)

朝5時に起床。リュックを背負い高枝切りをかかえ、いざ弁慶は出陣と言うと、「狸がビクを担いで釣竿をもって釣りに行くみたい」と後ろのほうで声がするが、無視。

叡元田中から6時58分発京都駅行きバスに乗車。京都駅7時

31分京都到着。走って緑の窓口へ。7時45分発の新幹線に乗車。無事静岡に9時31分に到着。(などと書いているがほとんどは後で調べただけ……)。

馬場さんのお迎えで、スタッフの方と事務所へ。京都からの荷物を渡して、ほっと一息。あとは座って石の地蔵を決め込む。難しそうなパソコンの設定(スカイプとかいうような)を眺めながら、お茶をすする。若いお母さんが多く集っている。

10時半、開始。色々な質問を受ける。若い人の心配する気持ちが伝わってくる。質問の中で、一番答えられないのがYESかNOの質問だ。私は、今ここで生きる上での対処方法を一緒に考えることはできるが、一般的な質問に答える術を持っていない。

「食べても良いのですか」と聞かれると、「食べなくて済むのであれば、食べないほうが良い」としか答えられない。辛い質問ではある。でも、質問している人は、ここで生きていかなければならない。

お昼のお弁当を食べて、いざ松葉の採取へ。車で島田・浜岡原発東・牧之原を採取して静岡市へ、静岡市で採取。スタッフの方に感謝(顔と名前が合わないけどごめんなさい)。

その後は飲み会(違ったかもしれない)。ちょっと飲みすぎたかな……。何となく居た人は覚えているが……。仕事の後に一杯(いっぱい)飲むのが好きなんです。

8月31日(水)

朝5時起床、5時半集合。いざ出発、同伴は馬場さんとお酒の好きなもう一人の女性のMさん。